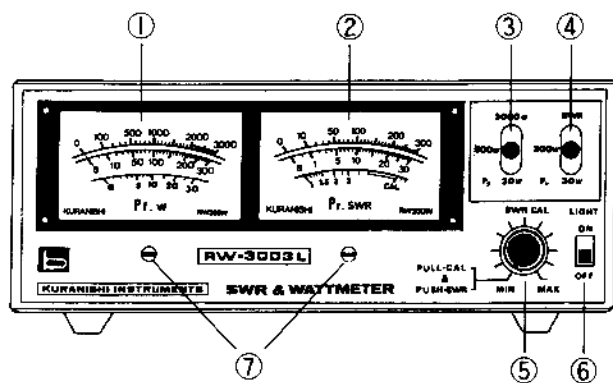


この度はクラニシ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本機の性能を十分に発揮させていただくために、本取扱説明書をよくお読み下さい。

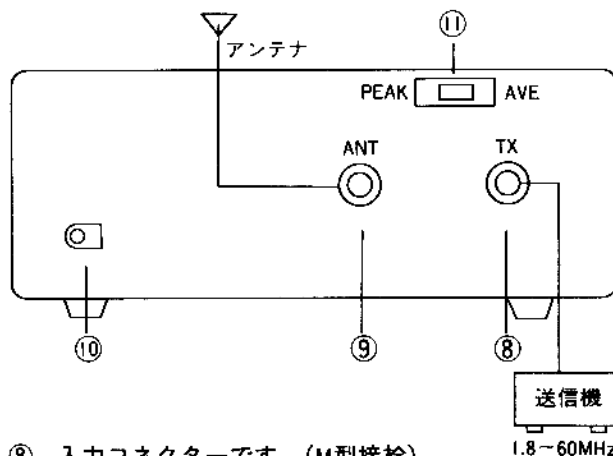
- ★ この測定機、RW-3003Lでは、下記の測定が出来ます。
- ① 送信機の出力の測定（進行波電力=Pt）
送信機からアンテナに向けて何ワットの出力が出ているかが測定出来ます。（Ptメーターにより）
 - ② 反射電力の測定（反射電力=Pr）
送信機からアンテナに向けて出ていった電波がどれだけ戻って来たかが測定出来ます。（Pr.SWRメーターにより）
 - ③ SWRの測定
PtとPrによりSWR値を直読できます。
またPtとPrが電力で測定できるので計算やグラフによって正確にSWR値を算出する事もできます。
 - ④ 使用できる周波数
1.8MHzから60MHzまでの広い範囲にある、すべてのバンドで使用できます。

各部の説明

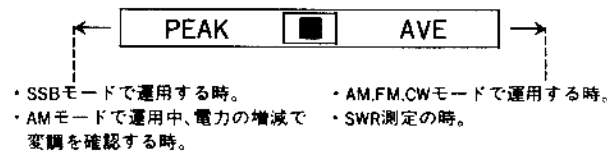


- ① 電力測定用メーターです。
このメーターで進行波電力Ptを測定します。（送信電力）
- ② 反射電力（Pr）の測定及び、SWR測定用メーターです。
④のスイッチが30W・300Wの位置の時はアンテナからもどってきた反射電力を電力で測定します。
PUSHU & PULLスイッチでSWR直読メーターとなります。

- ③ 電力測定（Pt）のレンジ切替スイッチです。30W・300W・3000Wの3レンジ切替えです。
- ④ 反射電力切替とSWR測定切替スイッチです。このスイッチが30W・300WのときはPrメーターは反射電力計として動作します。
このスイッチがSWRの位置のときだけ⑤のSWRCALツマミが動作し、PrメーターをSWR測定専用メーターとして動作させることができます。
- ⑤ SWR CALツマミです。
このツマミはキャリブレーションボリューム（回転）とキャリプレートスイッチ（PUSHU & PULL）が1個所で出来るようになっています。④のスイッチがSWRの位置のときだけ動作します。
- ⑥ ライトスイッチです。
①及②のメーターは照明用ランプが内蔵されています。このスイッチでON-OFFします。
- ⑦ メーターゼロ点調整用穴です。
①及②のメーターのゼロ点を調整するための穴です。



- ⑧ 入力コネクターです。（M型接栓）
送信機と接続して下さい。
- ⑨ 出力コネクターです。（M型接栓）
アンテナと接続して下さい。
- ⑩ DCソケットです。
照明用電源DC13.8Vでセンタープラスで接続して下さい。ランプの点灯は前面⑥のスイッチで行います。
- ⑪ 電力メーターのPEAK/AVERAGE切替スイッチです。
このスイッチはAM・FM・CWモードで運用する時はアベレージの方（AVE）にセットして下さい。
SSBモードの時は（PEAK）側にセットします。



送信電力の測り方

①の電力測定メーター及②の反射電力測定メーターを双方共電力計として動作させる時は、反射電力切替スイッチ④を30W/300Wのどちらかにセットして下さい。双方のメーターは電力計として作動し①で送信電力Pt②で反射電力Prが正確に測定できます。

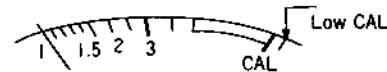
送信電力とSWRを同時に指示させて運用する場合

①のメーターで送信電力を測定し②のメーターでSWRを表示させて運用の場合は④の反射電力切替スイッチをSWR側にセットして下さい。その後⑤のSWRCALツマミをMINまでもどし、AM FM CWなどの搬送波のあるモードで送信しながら、⑤のツマミを引出し（PULL）時計方向にゆっくり廻し②のメーターがCAL位置まで上ったら止め、その場所で⑤のツマミを押込むと針はゆっくり下がり、その時のSWRを指示します。

この時、①のメーターは送信電力を指示します。
この使用方法で送信電力とSWRが同時に測定されてとても便利です。

注意としては送信機の出力が10W以下の場合、CALセット位置は下図のLow CALの点でセットして下さい。

（⑤のツマミを引出しCALセット中は①の電力計メーターは動作しません。）



送信電力が増減した場合や周波数が変わった時はもう一度⑤を引出してから針をCAL点に合わせて押込んで下さい。（キャリブレーションの取りなおし。）

警告 注意

空中線、アンテナ等のSWRが悪いままの大電力送信は危険です。絶対におやめください。火災、加熱、故障及び故障による感電事故の原因となります。// かならず//SWRを1近くに調整した後に大電力送信を行なって下さい。